WORK EMOTION ZR10 with G corporation FLASH SILVIA

CRからZRへ進化！エモーション20周年に正統派10本の存在価値を世に問う！

ドリフトシーンでもおなじみの「ワーク・エモーション」シリーズ。今年で20周年となったこのブランドに、CR（5本スポーク×2）とおなじ10本スポークだけど、まったく異なるキャラの「ZR10」が登場。最新にしてアニバーサリーモデルとなるこのホイールが、あらたなエモーション伝説を作り出す！

20th ANNIVERSARY

オートサロンのエモーション20周年用ディスプレイには、ZR10をはじめ現在販売中のエモーションシリーズがオプションカラーで展示されていた。エナジーグリーンは斎藤太吾スープラに履かせたモンスターカラーを反映したそうだ。

エモーション 20周年を飾る意欲作！

20年まえ、エモーションが誕生したきっかけは、1999年の全日本GT選手権（JGTC）において、ラリーアートのFTOにワークがホイールを供給したことだった。

「ES-990111」という開発ナンバーのレーシングホイールはセンターロックでマグネシウム製だったけど、そのデザインを落とし込んだ市販アルミホイールの誕生こそが、のちの「エモーション伝説」のはじまりだった。

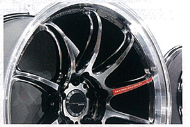
発売直後から好評だったエモーションの人気は、進化バージョン「CR」の登場でさらに加速。ちなみにCRの意味はレースシーンから登場したことから「カー・レース」とか「サーキット・レーシング」の意味だと言われたり、ワークのカタログでは「キャスト（鋳造）・レーシング」とか「コンペティション・レーシング」と呼ばれてたりするんだけど、正解はないみたい。

そんなCRや後継モデル「CR Kai」で確立された伝統のデザインは、現在も「CR Kiwami」に受け継がれている。アメリカでもエモーションの人気は高く、マルチピースが好まれる北米市場向きに進化した「CR2P」と「CR3P」で絶対的な地位を確立してきた。

こうしてCRで築き上げたレースホイールのイメージそのままに、毎年のようにディスクデザインがことなる製品を投入。製造技術や製法が進化することで実現できたデザインも多く、このエモーション20年の歴史はワークの技術革新の歴史を表している。

そして誕生から20年後の今年。スポークの本数やコンケイブ（反り）なラウンドなど、ディスクデザインも豊富になったエモーションにおいて、これまでありそうでなかった10本スポークの「ZR10」が登場した。

エモーションには5～11本スポークのうち、6本と10本は製品化されていない。それってCRが5本ダブルスポークだから10本はあえてはずしてきたんだと思う。そこに勝負を賭けてきたということは、とうぜんCRとおなじ…いや、それ以上の自信作だという気鋭の表れなんじゃないでしょーか！



リムエンド手前で落とし込みつつ等間隔に配置された10本のスポークと、リップカットと呼ばれる切削と塗りわけで2ピースのような印象。コンケイブ（テーパー）はセミ、ミドル、ディープ、ウルトラディープテーパーの3種類だ。カラーバリエーションは4つの標準色のほか、パステル系6色、キャンディカラー3色、光の角度で見た目が変化するアステリズム2色がオプションで選べる。

リムに浮かび上がるWTFの文字は「ワークフルフローミングテクノロジー」の略で、鋳造ながらリムに圧力をかけながら伸ばすことで鍛造に迫る強度を実現する。メッキが美しいのもワークホイールの特徴だ。

鍛造の試作品も！

試作品として展示されていた「エモーション・フォージッドモデル」も要注目。10本スポークだけどパターンからするとCR系っぽい。バキバキなエッジ、肉抜きされたスポークなど、見るからに鍛造ホイールとわかる機能美たっぷりなデザインだ。

Gコーポレーションのs15に装着されたZR10（ズィーアールテン）をあらためて見ると、リムエンドまでスポークが伸びるCRとは別のキャラクターだとハッキリわかる。ディスクはウルトラディープテーパーをチョイス。大きく落とし込まれたセンター部とコンケイブラインが、ホイールの奥行き感を演出する。

ドリ車にオススメなサイズ

10.5J×18 +12

価格：5万5000円（1本）

サイズと価格

【17インチ】
7J / 8J / 9J
4万4000円～5万1000円

【18インチ】
9J / 7.5J / 8.5J / 9.5J / 10.5J
4万8000円～5万7000円

【19インチ】
8.5J / 9.5J / 10.5J
5万3000円～6万円

カラーバリエーション

グリミットブラックダイヤカットリム／チタンダイヤリップカット／アズールホワイト／ブラックダイヤリップカット

ワーク・エモーション20年の歴史

1999年	全日本GT選手権にむけてマグネシウム1ピース「ES-990111」を開発。
2000年	プロトタイプ製作から数ヵ月後、市販モデル「エモーション」が誕生。
2002年	よりスポーティに洗練された「エモーションCR」にモデルチェンジ。
2003年	製法の改良により軽量化を実現した「エモーションCR Kai」に進化。
2006年	従来のデザインから一新した7本スポーク「エモーションXT7」を発表。 XT7と同時期に9本スポーク「エモーションXD9」も登場。
2007年	デザイン性の高い8本スポーク「エモーションXC8」が登場。
2010年	11本スポークでレーシング界に革命を起こすべく「エモーション11R」と命名。
2011年	高度な製法によりCRkaiが後継モデル「エモーションCR Kiwami」に発展。
2014年	リムの深さを追求した9本スポークの「エモーションD9R」が登場。
2015年	XT7をリニューアルした「エモーションT7R」に仕様変更。 北米で人気を博した2ピースモデル「エモーションCR2P」を追加。
2016年	マルチピース人気を受けて「エモーションT7R2P」を追加。
2017年	XC8が正常進化を遂げた「エモーションM8R」として再生。
2018年	ダブルではない正統派5本スポーク「エモーションT5R」が登場。 SEMA発表で注目された「エモーションCR3P」を日本で発売。
2019年	マルチピース化が進み「エモーションT5R2P」も追加。 SUV向けに6穴の「エモーションCR　SUV」を追加。
2020年	記念イヤーモデルとなる「エモーションZR10」が誕生。